

課題解決型高度医療人材養成プログラム 選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント

〔 取組 1 〕 医師・歯科医師を対象とした事業
 (2) 特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成
 小児周産期領域

	整理番号	1 2
申請担当大学名 (連携大学名)	鳥取大学 (秋田大学、山形大学、大阪市立大学) 計 3 大学	
事業名	重症児の在宅支援を担う医師等養成	
事業責任者	大学院医学系研究科長 福本 宗嗣	
事業の概要		
<p>1) 人材育成：小児科医を対象に、重症児診療に必要な高度な医学的知識と診療技能を修得し、多職種・多機関と連携できる人材養成を目的としたプログラムを開設する。また、重症児の院内マネジメント及び地域の関係機関と連携できる人材（医師やソーシャルワーカー、看護師等）の育成をインテンシブコースにて行う。2) 大学連携：連携大学と分担して大学院教育を行う。各大学の得意分野を生かして高度な知識と技能を修得する。3) ネットワーク化：重症児の在宅支援のために、地域医療機関や福祉事業所（訪問看護やリハビリ、ヘルパー）行政とネットワークを構築し、重症児の包括的な地域支援を実現する。4) 全国普及：本事業で全国初の重症児の地域連携モデルを 4 拠点で構築し、そのノウハウを全国に普及させる。本プログラム・コースは公募制とし、育った医師が全国各地で拠点を作り、リーダーとして活躍できることを目指す。</p>		
推進委員会からの主なコメント ：優れた点等、 ：充実を要する点等		
<p>重症児の在宅支援に特化した教育プログラムはほとんどなく、実現可能性も高く、評価できる。重症児の在宅管理は、不足する NICU の効果的活用のために必要であり、その支援プログラムは独創的である。</p> <p>重症小児の在学医療人材の育成はニーズが高いため、本事業による取組の普及が期待される。本事業は医師養成プログラムであるが、可能であればコメディカルや学生時代からの教育に力を入れているプログラムについても検討いただきたい。</p> <p>医師は年間 2 名のみの育成であり、費用対効果の観点からも養成人数について検討いただきたい。また、ポンチ絵で示す「小児科医の全国公募」についても、多く履修者が確保できるよう工夫が必要ではないか。</p> <p>養成対象は、自大学で育てた医師のみを対象にしていると思われる。また、他大学との連携について、他大学から講義などによって専門知識を得られることとしているが、連携大学を通して地域へフィードバックする方策について検討することが望まれる。</p> <p>e ラーニング、TV 会議システムを活用すると記載されているが、履修者が受講しやすい環境整備や運用方法が望まれる。</p> <p>インテンシブコースについても、育成を増やすことについて検討いただきたい。</p> <p>実際には地域における診療所医師の在宅医療力の向上が不可欠であり、教育プログラムに含まれることが望ましい。</p> <p>在宅医療教育指導者の養成であれば、その後の開業医への教育等につながると思われることから、更なる検討が必要ではないか。</p>		